

令和5年度
まちづくり懇談会
実施報告

企画政策課 広報広聴係

令和５年度まちづくり懇談会

実施期間 ： 令和５年６月２１日(水)から７月１１日(火)まで

実施回数 ： ４回

延参加人数 ： ５９名

※参考（R4） ： ８０名

意見・提案数 ： ５７件

開催期日・会場

開催期日	会 場	意見等 (件)	一般 (人)	議員 (人)	職員 (人)
６月２１日(水)	伊王野基幹集落センター	１０	１２	１０	９
６月２７日(火)	芦野基幹集落センター	１３	９	１３	１１
７月５日(水)	高 原 公 民 館	１５	１３	１１	９
７月１１日(火)	那須町文化センター	１９	２５	１１	２９
計		５７	５９	４５	５８

期日	会場	意見・提案等	備考
6/21	伊王野基幹 集落センター	1 ゴミの散乱について・・・P4 2 つくば八溝縦貫白河道路について・・・P4 3 自治会のあり方について・・・P5 4 東山道について・・・P6 5 不妊治療について・・・P6 6 お米を使った誘客、森を育む事業について・P6 7 余笹川ふれあい公園の遊具について・・・P7 8 教育長との意見交換の場について・・・P7 9 旧伊王野小学校跡地利用について・・・P7 10 防災について・・・P7	
6/27	芦野基幹集落 センター	1 子育て世帯向け賃貸住宅の建設について・・・P8 2 婚活のサポートについて・・・P8 3 芦野団地について・・・P8 4 あしの苑入口の信号機について・・・P9 5 タクシー券の配布について・・・P9 6 運転免許証自主返納について・・・P9 7 旧芦野保育園の管理について・・・P9 8 菖蒲川の清掃について・・・P10 9 森を育む事業集積計画について・・・P11 10 遊行庵の整備について・・・P11 11 道の駅東山道伊王野の駐車場整備について・P11 12 歴史探訪館の書庫について・・・P12 13 ふるさと納税の用途について・・・P12	
7/5	高原公民館	1 定住、移住促進について・・・P13 2 簡易シェルターの設置について・・・P14 3 町職員の職場環境の整備について・・・P14 4 登山客への対応について・・・P15 5 旧室野井小学校の利活用について・・・P15 6 道路の白線について・・・P15 7 街灯の設置について・・・P15 8 町中央運動公園の整備について・・・P16 9 町中央運動公園の駐車場整備について・・・P16 10 遺構・遺跡について・・・P17 11 観光業促進について・・・P17 12 灌木の伐採について・・・P17 13 観光行政について・・・P17 14 危険物撤去について・・・P18 15 意見・・・P18	

7/11	那須町文化センター	1 カーボンニュートラルの実現について・・・ P20 2 永続的クリーンアップ活動を！・・・・・・ P20 3 県道211号線高久駅周辺の 整備改善について・・・・・・ P21 4 排水溝の修繕について・・・・・・ P21 5 景観について・・・・・・ P21 6 定住について・・・・・・ P22 7 消火栓の身の振りについて・・・・・・ P22 8 部下とのコミュニケーションについて・・・ P23 9 矢の目ダムの有効活用について・・・・・・ P24 10 生成 AI の庁内業務利用について・・・・・・ P24 11 町のアピールについて・・・・・・ P25 12 那須温泉の有効活用について・・・・・・ P25 13 観光業の活性化について・・・・・・ P25 14 単身高齢者の福祉について・・・・・・ P25 15 町中央の道標の身の振りについて・・・・ P26 16 図書館の設備について・・・・・・ P26 17 那須シニアカレッジの活動について・・・ P26 18 危険な交差点について・・・・・・ P27 19 子育て世代の定住について・・・・・・ P28	
------	-----------	--	--

6月21日（水）伊王野基幹集落センター

1 ゴミの散乱について	(環境課)
伊王野・稲沢付近の国道 294 号周辺でゴミを拾っている。尿の入ったペットボトルが散乱しているなど、道路脇の森林にゴミが堆積している。川を通じて海にゴミが流出することなど懸念される。環境問題を重視し、美しい那須を維持したいものだ。	
(町長) 一般国道 294 号沿いは主要幹線につき交通量が多く、以前からゴミのポイ捨て等が多い路線であり、その対応に苦慮している。町としては、集中的に捨てられる箇所への監視カメラの設置や、ゴミ捨て禁止看板の設置などの対応をしている。今以上にゴミのポイ捨てが増えないような施策を調査・研究していきたい。	
ポイ捨てをやめなければキレイにならない。捨てやすくなっていることも課題であり、みんなの生活の仕方も考えなければならない。294 号は道の駅に通じる道でもあり、周りが素晴らしい田園風景になっているのに、街路樹は年に 1～2 回くらいしか草刈されていない。近所の方も草刈をしてくれているが、いつも残念だと思っている。	
(町長) 町でも巡回などの対応をしているが、おっしゃるとおり、ゴミを捨てない対策が必要。ゴミがあると捨てやすくなるため、すぐに片付ける体制も必要。国、県にも提案していく。街路樹について、場所によっては、手入れが行き届いていないことは、承知している。町民の皆さんにも沿道の美化活動をしていただいているのも十分承知しており、町も引き続き対応していく。	
2 つくば八溝縦貫白河道路について	(建設課)
つくば八溝縦貫白河道路について詳しく知りたい。(高規格道路)	
(町長) 本町を含めた栃木県東部の八溝地区を南北に縦貫する広域道路の構想であり、県域を超えた連携・交流の促進や国土強靱化に貢献する道路として、町でも大きな期待を寄せている。広域道路交通計画として県や国の計画に位置付けられており、詳細については、今後、決定されていく。また、事業の加速化のため、令和 4 年 10 月には県内の関係市町の首長を構成員とする八溝道路推進首長連合が設立され、情報収集に努めるとともに事業実施に向けて関係機関に要望活動を行っていきたいと考えている。	
高規格道路とは高速道路のことか。	
(町長) 最終的には高速道路になってほしいという思いはありますが、まだ、なんとも言えない。	
高速道路はいらない。広い道路で、流通しやすい道路のほうがいいと思う。	
(町長) 正式には決まっていない。今回第 1 回目の会議が開催されるので、その時に各市町の思いが聞けるかと思う。	
国に要望するということか。期成同盟会か。	
(町長) まずは県と一緒に国に要望してく。期成同盟会とは異なる首長連合会として設立した。	

縦貫道路も重要かと思うが、地元の日常生活道路で不便をきたすところに優先的に力を入れていただきたい。稲沢沓掛地区から町田に抜ける道路は、一部地元の協力で路肩の草木の伐採をし、道路の凍結が防止されたが、道幅が狭く事故が起こりやすい。平山副町長は土木行政等に知見がある方なので、今後に期待したい。
(町長) 平山副町長は、県とのパイプがある。副町長に尽力いただきながら、町内における国道、県道に対し十分な要望ができる。
(副町長) 八溝縦貫白河道路はまだルートは決まっていない。沿線の首長の意見を聞いて具体化していく段階。首長や地元の意見が大事になってくるので、ぜひ皆さんの意見を町長へ伝えてほしい。また、那須町はロイヤルリゾートであるため、他の市町より、道路の整備水準を上げたほうがいいのではと考える。重点的に整備をしていただくよう声を大にしていきたい。一方、那須町の道路はまだまだ整備が進んでいないところもたくさんある。たくさんある故に、全ては対応できない。皆さんの声を聞いて、優先順位を見極めていきたいので、ぜひ声をいただきたいと思う。
3 自治会のあり方について (総務課)
移住して10年が経った。那須町はいいところで大好き。那須町の湯本の方と伊王野の方の雰囲気が違うと感じる。また、自治会に付属する団体が大変多く驚いた。公立小中学校の後援会、消防団、防火クラブ、それぞれに会費や班長が回ってくる。会費を何に使っているかもわからない。消防団は大切な団体だとは思いう反面、住民への負担、特に若い方への負担が大きいと思う。定住者を招くにも、そういったことが一つのハードルになっていると思う。自治会のあり方について、今後考えてはどうか。
(町長) 湯本地区と伊王野地区が違うということだが、地区別再生計画では、湯本地区は観光、芦野・伊王野地区は歴史と文化、黒田原・高久地区は働ける環境、矢の目地区は自然を生かした遊べる場所にしていきたいという構想をたてている。小中学校の後援会については、那須町は昔から学校と地域は一体であり、地域の方と協力して校庭の維持管理もしている。消防団については、消防団の夏季点検、消防操法競技大会を行っており、団員数が減っているのも現状だが、携わっている方々で話し合いをしていただきながら、行政とも協議を進めていきたい。
(教育長) 那須町の小中学校では、どの学校も後援会という組織がある。地域に学校ができた当時から、日本の学校は地域の「おらが学校」だった。町から施設整備の予算配分はあるが、より地元の子もたちの学校環境を良くするため、後援会で地域から会費をいただいている。どの学校も後援会の決算は出すので、ぜひ参考にしてほしい。
運動会や後援会活動を全て自治会としてやればよいのではないか。団体を作ると、その組織運営費がかかる。自治会に1本化すればスマートではないか。
(総務課長) 町内では89自治会が組織されており、それぞれが独自の活動をし、地域を支える皆さんの顔が見える関係でいる。消防団、防火クラブ、後援会、それぞれ、目的が異なり、1本化という考えもあるが、役員が複数の役を担い、負担感も増えてしまう。それぞれに活動するので、活動費もそれぞれ必要になる。消防団員は550名ほどいて、消防署職員

と異なり、他の仕事をしながら活動しているため、負担感を感じ、若い人が入ってこないという悩みを抱えている。ただ、火災だけでなく災害において必要だという熱い思いを持っている人もいて、そういう方は一生懸命活動しているのが現状。活動の費用については、消防の代表者に聞くのもいいのではと思っている。明るいまちづくりには顔の見える関係、コミュニティーは非常に大切なのでご理解いただきたい。

（町長）消防団に対しては大変ありがたいと思っている。先日の湯本地区の火災でも、消防署だけではなく、消防団の方々もいち早く現場に駆けつけていただいた。ぜひ消防団に加入していただきたいと思う。また、自治会体制だけでなく、分野分野に分けて組織を作っており、どの組織も総会を開催している。各組織でお話をさせていただくことも必要かと思っている

4 東山道について

（生涯学習課）

東山道について。この道は伊王野を通っていた。奥州街道よりも古い歴史があり、義経が鎌倉から平泉に行く際通っている。このように歴史のある町だ。大田原市は東山道の発掘をしているが、那須町は全く触れられていない。東山道についての発掘とルートをぜひ調べていただきたい。

（生涯学習課長）東山道のルートについての調査研究は、今のところ取り組んでいない。今後どのように歴史分野の調査を進めたらいいか、研究をしながら取り組んでいく。

（町長）大田原市は早く発掘が始まっており、那須町でも意見やアドバイスをいただきながら進めていきたい。歴史探訪館の学芸員や、歴史に詳しい職員 OB もいるので、スピード感を持って進めていきたい。

5 不妊治療について

（こども未来課）

不妊治療の支援について。休暇を取得した人が勤めている会社に支給されるものか。

（こども未来課長）会社と休暇を取った方に、それぞれ 1 日あたり 1 万円を支給する。年間 15 日までを限度とする。

休んだことに対して出るものなのか

（こども未来課長）そうです。

不妊治療は 1 回で 100 万近くかかる。他の自治体でやっていないことを那須町でやっているとなれば、リビングシフトの推進になると思う。

（町長）不妊治療について、費用がかかるのは重々承知している。今回の那須町の支援事業は、微々たるものではあるが、他の自治体ではやっていないもの。子どもは国の宝、高齢者は財産。子どもを増やさないといけないと思っている。

6 お米を使った誘客、森を育む事業について

（農林振興課）

以前、那須町の東地区の誘客について、大学の助教授が話を聞きに来た。この辺りはお米が有名なので、お米を使った事業をしてはどうかと提案し、何度も話を聞きにきてもらったが、その後、話が進んでいない。東地区の誘客事業にもっと力を入れてもらいたい。東地区のお米は魚沼産コシヒカリと遜色ないくらいいいお米。そういうものを、もっと取り上げてほしい。また、森を育む事業の担い手育成や環境学習の対象は誰か。

(農林振興課長) 小中学生を対象にした木工教室の開催や、これからを担っていく若者を対象にしている。	
意欲がある那須高校の生徒に教えてはどうかと思う。	
7 余笹川ふれあい公園の遊具について	(生涯学習課)
ふれあい公園にユニバーサルデザインの遊具が設置されるということで、少し安心した。那須町で子ども達を遊ばせるところがない。どの程度の規模の遊具か。	
(生涯学習課長) 今回予定しているものは、未就学児を対象とした滑り台、のぼり棒などが一体化したもの。	
子どもが遊ぶ場所があればリビングシフトにつながるのではないかな。子育てしやすい那須町になっていてもらえればと思う。	
8 教育長との意見交換の場について	(学校教育課)
教育長に会う機会がほとんどない。私たちの声がどれだけ教育長に届いているか不安になる。どうにかしてほしい。	
(教育長) 私が保護者の皆さんと話す機会は、例えば、わいわい学習フォーラムや学校運営協議会の場があるが、皆さんからすると、会う機会がないと思われるのかも知れない。心して皆さんの意見を聞いていきたいと思う。ぜひ、声を掛けてほしい。	
PTA総会の際に来てもらって話を聞くなどしてほしい。直接意見を届けたい。	
(教育長) 今後、そういった場を作るよう努力していきたい。	
9 旧伊王野小学校跡地利用について	(企画政策課)
先日、旧伊王野小学校跡地利用のアンケートが届いた。小学校跡地は、伊王野地区の一等地である。先ほどの意見でもあった歴史的な要素や子どもの遊び場など、作り方によっては伊王野に移住して良かった、帰ってこようと思うような、伊王野地区の将来を左右する跡地利用になると思う。お金がかかることだと思うが、伊王野地区しいては那須町を左右する問題であるので、予算措置をお願いしたい。	
(町長) 各団体の意見もしっかりと聞き、維持管理費も検討しながら、行政と共にどういう体制をとったらいいか、何を作ったらいいか、皆さんの声を聞かせていただき、丁寧に進めていきたい。	
10 防災について	(総務課)
昨年度の懇談会で防災関係の話があったと思うが、今年度は入っていない。昨年度、我々が陳情した防災関係のものが不採択になった経緯があるが、その後、どういう形でこの防災関係の事業について検討してきたか、さらには、今年どの様な計画で実施していくか。後日でいいので、回答いただきたい。	
(町長) 後日回答いたします。⇒当日、質問者に対し安全安心メールや固定電話への緊急情報伝達サービスの案内を行った。	

6月27日（火）芦野基幹集落センター

1 子育て世帯向け賃貸住宅の建設について	（ふるさと定住課）
各小学校の近くに若い子育て世帯向けの学童保育園付き賃貸住宅を建設する。孫の居る家族は祖父母の貸家もOKにする。そうすることで若い世代の住民が増えてくる。働きたいけど子供を預ける所がない、また孫と暮らしたいけど同居では大変という祖父母に利用していただく。また、他市町からの移住なら税制の優遇を3年位する。子供の学校を替えたがる親は少ないので、小学校を入学と同時に転入してもらえば人口が増えていくと思う。	
（町長）令和3年度に、子育て・新婚世帯向けの賃貸住宅を建築し、現在（6月1日現在）満室の状況。本町には賃貸住宅が少ないということもあり、子育て世帯向けの賃貸住宅を含め、単身者向けの賃貸住宅など、ニーズの様々な要因を検討し、利便性やアクセスの良い場所への賃貸住宅の建設を検討していきたい。	
令和3年に建てた賃貸住宅が満室とのことだが、場所はどこか。	
（町長）黒田原。もともと町営住宅があったものを解体し建設した。	
黒田原は利便性も良く、賃貸住宅もあるからこそ、子どもが増えているのかと思う。増えている所に建てるだけでなく、減っているところにも建設を考えてほしい。	
（町長）子どもの数は全体的に減ってきている。歯止めをかけようと、まず、中心地である黒田原から始めた。できるだけコストがかからない方法を考え、栃木県初のPFI方式（※）で建設した。賃貸住宅の前に、働ける場所が必要。那須に来てもらう、また、那須出身の方にもう一度魅力を感じて戻ってもらう場所にしたい。（※）公共施設等の建設、維持管理等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法。	
2 婚活のサポートについて	（生涯学習課）
晩婚化が言われているが、出会いなど結婚をサポートするものを町で企画してはどうか。	
（生涯学習課長）近年は、コロナウイルスまん延防止の関係でイベント等は控えていた。今年は具体的なイベント開催には至ってはいないが、来年度に向け、町内だけではなく、福島県西郷村や那須塩原市、大田原市と広域的に取り組んでいければと考えている。	
3 芦野団地について	（ふるさと定住課）
芦野の唯一の町営住宅がかなり古い。今後の町の計画は。	
（ふるさと定住課長）芦野の町営住宅は昭和48年建築。町では長寿命化計画を策定しており、現在は、修繕をしながら使っている状況です。	
ある程度、年度内に改修するとか言えないか。	
（町長）今後、スケジュール等調整しながら進めたい。ただ、今住んでいる方もいるので、よく精査しながら進めていきたい。	
（財政課長）町では、公共施設等総合管理計画がある。その中で、芦野団地は何年に改築するとは定めていない。対応年数は、平成7年に過ぎているが、いつ立て直すかは言えない。長期的な計画の中では、移転もしくは立て替えとなっている。	
古い順から建て直したほうがいいのか。	

(町長) 早めに対応できるようにしたい。	
4 あしの苑の入口の信号機について	(総務課)
県道 28 号線が狭くて下り坂のため、どうしてもスピードを出して通行している状況。あしの苑から出るのにカーブという事もあり、見通しが悪く、非常に危険な状況。そこで信号機の改善を要望する。	
(町長) 当該箇所は、もともと旧芦野小学校に通う児童が道路を横断するために設置された信号機となっており現在は、通学する小学生がいないことから常時青信号となっている。おっしゃるとおりあしの苑から車両で出る際、見通しが悪く危険であることは承知している。町では、当該箇所の改善に向けて那須塩原警察署（公安委員会）と協議を行ったが、警察では利用されていない信号機の撤去を推進してるとのことで当該箇所の改善要望を出すことで撤去が促進される恐れがあるとの回答だった。また、仮に信号機を要望する場合でも当該箇所は交差点ではないため、その先の Y 字路への設置要望となり、こちらへの設置も交通量の問題で設置はかなりきびしいとの回答だった。	
かなりスピード出て危ない場所。警察からの話は聞いてはいたが、危険な部分をそのままにできない。右側の土手の木は切ってもらった。警察の言うことはわかるが危険であることは危険と改めて明らかにしたい。	
(町長) 今後も安全対策などについて、どんな方法がいいのか、現地確認をし、県とも交渉していきたい。	
5 タクシー券の配布について	(保健福祉課)
一人暮らしの家庭にタクシー券を配布しているが、家族と住んでいても日中、一人になってしまうお年寄りにもタクシー券の配布を考えてほしい。	
(町長) タクシー利用券は、重度心身障害者の方、及び高齢者のみの世帯の方といった移動手段の確保が難しい方を対象として、日常生活の利便性向上や社会参加促進を目的として配布している。現時点でこの対象を拡大することは考えていないが、そのような現状があるということは課題としてとらえたい。	
若い人と住んでいても、日中は 1 人になってしまう高齢者がいる。タクシー代を全額出せというわけではなく、半額でもいいので出してもらえないか。	
(町長) まず福祉の面から体制を整えたい。重要な課題として取り組んでいかなければいけないと理解している。先進事例も研究していきたい。	
6 運転免許証自主返納について	(総務課)
高齢者が免許証返納時、タクシー券を提示されるが、商品券の方が有効に使えるのではないか。	
(町長) 担当課と相談して調査します。⇒事業の目的が自家用車に代わる交通手段を支援するためであることから、福祉タクシー券などの公共交通機関を利用していきたい。	
7 旧芦野保育園の管理について	(こども未来課) (財政課)
旧芦野保育園の樹木を伐採してほしい。木も大きくなっているし、草も茂っている。もう少し管理していただけると見栄えも良くなるのでは。	

(町長) しっかりと管理していく。環境美化の面でも必要。	
地域の人たちがフェンスの外は草を刈ってくれているが、内側は刈れない。環境美化の面からもっと細かく見てほしい。できれば、街灯を付けてもらいたい。	
(こども未来課長) 昨年、木の伐採、草刈を行った。今後も草刈り等は続けたいと考えている。また、大きな木の伐採についても検討していく。	
保育園の建物は、このままにしておくのか、貸し出すことはできないか。	
(町長) 旧高久保育園の跡地については、地元の方々が地域活性化のために使用するということで、補助金を利用して改修した。その後は、地元で維持管理をしている。旧芦野保育園についても、可能かと思う。	
(財政課長) 現在、旧芦野保育園はこども未来課が所管しているため、自由に利用できる施設になっていない。保育園の備品などが保管されている。それらが整理できれば普通財産という、何にでも活用できるものになり、財政課所管となるため、跡地利用として企画政策課と協議しながら方針を決めていきたい。	
(町長) 行政だけでなく、地元の皆さんの声を聞き、参考にしながら進めたい。	
なぜスムーズに移行できないのか。また、例えば遊行庵は、なぜ2つの課で所管しているのか。利用を考えるなら1つの課にすべきではないか。	
(町長) 何を目的に利用するかによって補助金を扱う部署が違ってくる。有利な補助金を使うため、どうしても部署が違ってくるのが現状。	
(財政課長) 旧芦野保育園は、建物が一部耐震構造になっておらず、中に人を入れて使うことができないこともあり、なかなか利用が進まない状況だが、ご意見もいただきましたので、利用できる方法を考えていきたい。	
(総務課長) 全体的な考え方ということで、施設に関しては、少しでも財政が有利なものを各課探している。例えば、観光が有利であれば、観光商工課がその補助金を申請する。ただ、補助事業は、ルールがあり、ある程度の期間は、担当課の管轄になる。ある程度の期間が過ぎれば一本化することも考えられるが、それは、財政を有利に進めるための一つの手段として、この様な方法をとっている。	
理由があることは理解した。町として集中して予算をかけられるようにしていただきたい。	
8 菖蒲川の清掃について	(建設課)
旧芦野小学校の脇の菖蒲川に土砂がたくさんたまっているので清掃をしてほしい。	
(町長) 菖蒲川は一級河川であるため、管理者である栃木県（大田原土木事務所）へ情報提供する。	
(副町長) 令和元年、芦野伊王野地区は雨が多く降り、大変な被害があった。県でも、かなり予算を投入して土砂を取り除いたが、全てに目が行き届かないところもあり、申し訳ありません。菖蒲川に限らず、場所を教えていただければ、私から土木事務所に伝えて、対応したい。	

数年前、太鼓橋から新開橋までやっていただいた。ところが、その先をやっていないため、また貯まる。その脇の土手が石垣になっていて、かなり高さがある。地域で年に4回清掃をしているが、高低差があり怪我が心配。できれば、危険な部分は町や土木事務所をお願いできないか	
(町長) 自治会においての清掃活動について、ご協力いただきありがとうございます。危険なところは無理しないようにお声がけいただきたい。できるだけ対応したいが、環境美化に関しては、安全な範囲でご協力いただければと思う。	
奈良川との合流地点で草刈りをしている。よしが生えているので、独自の事業として年に2回よし切りをしているので、報告する。	
(町長) 行政の目の届かないところまでご協力いただき感謝申し上げます。また、行政としても把握する必要があるので、ご報告をいただければと思う。	
この川を見ていただきたい。堆積物が分厚くなっていて、陸だか川だかわからない。本来はもっと深いはず。ぜひ見てください。	
土砂が溜まって、昔の面影がなくなった。川をきれいにしていきたい。	
(町長) 一度、建設課で視察させていただく。危険性など優先順位もあるので、それらを踏まえながら今後の体制をとっていきたい。	
9 森を育む事業集積計画について	(農林振興課)
町の取り組みの中の森を育む事業として、集積計画とある。具体的にどういうことか。	
(農林振興課長) 民有林を森林環境贈与税を利用して整理していく事業。既に利用しているところもあり、個人負担なしで山の整理ができる。ただ、樹木等の代金は個人には入らない。	
森林を増やす計画という意味かと思ったがどうか。	
(農林振興課長) 後ほど確認し、連絡する。⇒懇談会終了後、本人に説明済み。経営管理権集積計画とは、森林の経営管理状況や地域の実情を踏まえ、経営管理を町が行う必要があると判断した森林を集約するときに作成する計画。	
10 遊行庵の整備について	(観光商工課)
遊行庵の拡充整備はいつ頃か。	
(町長) 地元の方の意見を聞いて、順番に進めたいと思っている。再整備については、芦野の各団体に意見をまとめていただきたいとお願いをしているところ。	
意見の集約が進んでいるということか。	
(町長) 今後、進めていく。	
11 道の駅東山道伊王野の駐車場整備について	(観光商工課)
道の駅東山道伊王野は、土日に大変賑わっており、路上駐車や違法駐車が多くなっている。駐車場を広げる計画はあるか。	
(町長) さらに駐車場の確保した場合の費用対効果を考えながら、また東山道伊王野とも相談しながら進めていきたい。	

1 2 歴史探訪館の書庫について	(生涯学習課)
探訪館の収蔵庫は狭い。将来的にどうするか考えなければならない。今はりぼーる・たなかの給食室に保管しているが、収蔵庫として利用するところではない。これから資料が増えてくるので、将来的に収蔵庫なり書庫を検討していただきたい。	
(町長) 行政でも保管方法は考えていかなければならないと思う。歴史と文化は、後世に残していかなければならないもの。財政課ともよく相談していきたい。	
1 3 ふるさと納税の用途について	(企画政策課)
第 69 回芦野聖天花火大会が 4 年ぶりに開催され、伝統的な行事を継続しようということで準備を進めている。今後、寄付がどれだけ集まるか不安がある。そこで、ふるさと納税推進事業で、このような伝統的な事業に補助できないか。	
(企画政策課長) 寄付金の用途項目は定まっているため、直接花火大会へというのは難しい。用途項目の中で、文化伝統芸能スポーツに関するものがある。当初予算で、充当する事業は決めているため、他のお祭りとのバランスもあるかと思うが、来年度以降、検討していければと思っている。ふるさと納税以外にも、実行委員会がクラウドファンディングを利用する方法や、町の事業に対して企業からふるさと納税をいただくという制度も今後検討していきたい。	

7月5日（水）高原公民館

1 定住、移住促進について （ふるさと定住課①②④・総務課③・保健福祉課⑤）
① 公共交通機関の整備、拡充についての施策は。車離れといわれる若者層を引き入れるためには。 ② 移住者と先住者の結びつきを強固なものにする考えはあるか。私自身、移住者、別荘地定住で長く町に住む先輩たちと壁を感じることがある。（自治会活動なども含む） ③ 町役場の移住者への対応改善を望む。署名提出や問合せに「とりあえず受け取っておく」というような職員がいると耳にする。（自治会、班長からのアクションでも） ④ 移住者に選ばれる地域とするため、他地域にない特色が必要に思われるがどんな特色を作り上げていくのか。 ⑤ 子供にフォーカスした所信表明だったが高齢化率 42%の那須町は高齢者が住み続けたい町にすることも大切だと思うがなにか施策、活動はあるか。
（町長） ①移住相談の際、車をお持ちでない方や運転に不安のある方には、カーリースやペーパードライバー講習などをお勧めしている。また、現在運行しているデマンド型乗合交通や町民バスについては、利用者目線での改善に取り組みながら運行の継続を図っていく。 ②「デジタルふるさと会員証」という、移住者はもちろん、別荘所有者などの二地域で居住されている方も含め、情報共有やコミュニケーションが取れるアプリを開発中。那須町に関わる多くの方に登録いただき、活発なコミュニケーションと地域内の結びつきが強固となることを期待している。 ③地域や個人からの要望等については、書面等により随時お預かりのうえ、関係各課において検討のうえ順次対応している。しかしながら、内容によっては、ご要望等に沿った対応ができない場合もあるため、ご理解いただきたい。 ④那須町は、東京から新幹線で約70分、車で約2時間半と、首都圏から「ちょうどいい立地」にあり、多様な観光資源にも恵まれている。地方移住を考える方の多くが「自然に囲まれ、ゆとりのある生活」を希望され、「ちょうどいい那須」として移住先に選んでいただいている。また、子育て世代の移住希望者が重要視される「教育」についても、いち早く「ICT教育」の取り組みを進めている。「豊かな自然」と「多様な観光資源」に、「ちょうどいい立地」と「先進的な教育」を組み合わせ、移住促進を図っていく。 ⑤町では、高齢者の方に町内に住み続けてもらうためには、まず元気で居てもらうことが第一であると考えており、そのために通いの場の創出や介護予防支援に取り組んでいる。通いの場としては、町内各地域において町民が主体となって運営する生きがいサロンの設置支援を進めている。こちらは体操や唱歌、健康麻雀など多様な取り組みを行っており、多くの方に参加頂いている。また、高齢者の方が虚弱（フレイル）状態となることを防ぐため、介護予防事業を実施している。利用者の状況に合わせて町で実施する短期集中型のメニューや、地区の公民館で開催する教室、住民の皆様の自主活動支援などこちらも様々な取り組みがありますので、是非とも参加いただき介護予防に取り組んでいただきたい。

最近、天災事故が多い。有事があった時の安否確認や避難誘導は地区によってバラツキがある。防災無線が聞こえないところもあり、何かあった時どこに逃げればいいのかわからないとか、隣の人がいるかなど、町はどのようにして把握しているのか。	
(町長) 防災無線が聞こえないことは、どの地域にもある。町では、携帯で登録してもらうと同じ内容が流れるサービスや携帯電話をお持ちでない方も、住宅の固定電話に登録してもらうと、電話がかかるシステムをとっている。ぜひご利用いただきたい。	
(総務課長) 防災無線の音声聞き取りにくい件は、昔からの課題。近くにいる方でも、気象条件で聞きにくい。電話で無料で同じ内容を聞くことができることを、お知らせしていかなければと思っている。無料電話のほかにも携帯電話で登録するとメールで届くことや、家の固定電話に配信するというサービスも始めている。これもお知らせしていかなければと思っている。防災の関係について、今年各家庭に防災マップを配布した。避難場所や緊急時の連絡先が記載されている。ぜひご活用いただきたい。さらに、町で力を入れているのが、自主防災組織の結成。そういった組織が立ち上がると、さらに機動力アップすると思っている。	
町の取り組みは理解している。でも、高齢者の方、住民票が無い方は、メールや固定電話に関しての案内すら知らない。せっかく、いい行動を起こしているので、それがみなさんにわかるような、発信できるような体制をとっていただきたい。	
2 簡易シェルターの設置について	(総務課)
那須岳の三本槍岳と南月山に簡易シェルターを造るように国や県に要望して頂きたい。	
(町長) 那須岳の火山対策は「那須岳火山防災協議会」にて協議が行われており、その中でも避難壕（シェルター）の設置について話し合われてきた。那須岳火山防災協議会には、那須町と県を事務局として周辺自治体や国や県の関係各省庁のほか火山専門家を委員に迎え入れ那須岳の火山対策を協議している。火山対策は、全国の活火山を抱える自治体にこのような協議会を設け対策の検討を進めることとなっている。長野県の御嶽山のような水蒸気爆発が那須岳で発生した場合は、御嶽山の比ではないほど犠牲者が出る可能性を指摘されている。避難壕は、噴石から登山客を守る重要な施設であると考えている。しかしながらその特殊性から全国の主な 110 の活火山の中で避難壕を設置している山は、近年噴火が観測された九州や離島の活火山。(参考 12 山 111 箇所) これらの避難壕を設置した事業主体は、活火山を抱える自治体が国の補助を受けながら事業主体となって設置している。那須岳の場合は、関係する自治体も多く（那須町、那須塩原市、西郷村、下郷町、栃木県、福島県）また国立公園地内ということもあり町単独で事業を実施するには技術的な面や費用的な面で非常に困難な状況。このようなことから、町としても那須岳火山防災協議会の中で県や国に対し避難壕の設置について働きかけていきたい。	
3 町職員の職場環境の整備について	(財政課)
町職員の職場環境（食堂・休憩室）の整備について	
(町長) 町職員の職場環境（食堂・休憩室）については、現在、役場本庁舎 2 階に休憩室（和室）があるが、特に女性職員の利用に不便をきたしていることから、更なる職員の福利	

厚生向上を図るため、今年度改修を行う予定。併せて、既存の男女各ロッカールームに、体調不良時等に一時的に休憩できる設備も整備する予定。

4 登山客への対応について

(企画政策課)

那須岳の観光登山客への対応について。峠の茶屋駐車場は外まで車であふれているがどうなっているか。

(町長) 毎年那須へ観光にお越しいただきありがとうございます。お話のあった、峠の茶屋駐車場は、観光の繁忙期(GWや紅葉時期)に路上駐車や枠外駐車が見受けられている。那須岳への登山者の皆様が気持ちよく利用いただくため、峠の茶屋駐車場をつなぐ県道17号線の渋滞対策として、峠の茶屋駐車場がある奥那須地区については、GW期間中及び紅葉時期に栃木県、栃木県警察、町及び関係機関で組織する「那須高原地域活性化推進協議会」で路上駐車や枠外駐車を防止するためカラーコーンの設置している。また、特に混雑が予想される紅葉期では、週末の土日祝日に職員が現地に出向き、渋滞情報を確認したうえでTwitterを活用し渋滞情報の発信を行っている。引き続き、当協議会において効果的な渋滞対策を行うため調査・検討を行っていく。

5 旧室野井小学校の利活用について

(企画政策課)

先日、旧大沢小学校が利用される記事を見た。旧室野井小学校はどうなっているのか。

(町長) 旧室野井小学校は、現在、田代友愛小学校の放課後児童クラブと、サテライト教育相談室として一部の教室を利用している。残りの空き教室等については、雇用につながる施設として利用できるよう検討しているところ。地元企業のみなさんから事業提案を受け付けていますので、利活用を検討されている事業がありましたら、ぜひ企画政策課へご連絡をお願いします。

6 道路の白線について

(建設課)

道路の白線が消えているところが多い。雨の降っている夜の走行など対向車が来るとライトの光と濡れている道路の反射で視界が悪くなり非常に危ない。安全に走行できるように、センターラインと側線をしっかり引いて欲しい。

(町長) 町が管理する道路の白線や路面標示については、危険性、緊急性等を考慮して、現地を確認のうえ順次引き直している。また、県道については、県に要望し、対応をお願いしているところ。パトロールによる点検だけでは把握しきれない箇所もあるため、引き直しが必要と思われる箇所がありましたら、建設課までご要望ください。

7 街灯の設置について

(建設課)

那須町は街灯が少ない。那須白河線を白河から那須に戻るとき、那須町に入った途端、街灯が無く真っ暗になる。国道でも少ないと思う。明るい街にしたい。

(町長) 国道等の主要道路が、夜間においても明るくなることは、町の明るいイメージにもつながるものと思っている。主要道路を管理する国や県と道路照明設備増設の可能性について、相談していきたい。

街灯の設置について。前回の懇談会で大沢地区で街灯が少なく、夜が怖い。トラックや観光バスが通り、家が揺れて怖いとの意見を伝えた時、町の説明は、街灯設置は自治会の判断で、町としては自治会から要望があれば、補助金を出すという説明だった。先ほどの説明とは違うようなので、補足をしてほしい。	
(町長) 国道の場合についてお答えした。町道については、最初の設置については町から補助を出している。	
補足します。自治会で街灯を新設すると町から補助が出る。電気料は自治会で支払う。自分の地区が暗いときは、自治会の会長に連絡してください。それから、自治会費の中から支払っていますので、自治会に入ってください。	
県道はどうか。	
(町長) 国と同じ。	
(副町長) 道路に付いている照明は2種類ある。自治会が設置しているのは防犯灯。地域の防犯のために付けるため費用は自治会を出す。国、県、町の道路管理者が付ける道路照明は、栃木県の場合ですと、横断歩道、交差点、橋梁など交通安全上の危険があるところは、必要なところに照明を付けている。設置してほしいところは、ご要望いただければ伝える。	
8 町中央運動公園の整備について (生涯学習課)	
陸上競技場の整備について要望。日常 300 メートルトラックで練習しているため、400 メートルでの郡や県大会の時にバトンゾーンの位置の違いで感覚がつかめず練習の成果が出せなかったと心痛な子どもたちの声がある。野球場とグラウンドの間の危険な老木を伐採し、競技場内の石のステージの幅を縮小すれば 400 メートルのトラックが作れるのでは、	
(町長) 町の陸上競技場は、大会等で使用される 400m トラックと違い 300m トラックであるため、陸上の大会や練習等に不便をお掛けしていることは認識しています。ご意見のありました提案については、今後、運動公園を再整備する際の参考とさせていただきます。	
運動公園は、昭和 54 年に完成した。笹沼元町長から聞いた話で、東北新幹線那須トンネルを掘った土で、運動公園を埋めた。思った以上に土が出て、400m 取れないくらい天板が高くなってしまったため、300m としたと聞いた。今思えば、石の観客席は広すぎるので、削ってもらえば、400m 取れるのでは。検討いただき、早急に対応いただき、他所からも来てもらえるような運動公園を検討していただきたい。	
(町長) しっかりと検討していく。	
9 町中央運動公園の駐車場整備について (生涯学習課)	
町自前の駐車場の完備をぜひ急いでほしい。現在は、駐車場が少なく不備なために、町民も不自由を感じ、地域住民にも迷惑をかけているようだ。中央運動公園の野球場の北側に駐車場があるが、あまり止められない。その北側の低いところに民間の駐車場があり、1 日 500 円の駐車料金の看板が設置されている。この駐車場へ入る道路は下り坂で道幅が狭くカーブがきつく危険を感じる。また、中央運動公園に隣接している地主さんに相談したところ、町で希望があればいつでも相談に応じるとのこと。駐車場ができれば運動会競	

技、大会など他市町村から来てくれる方々、また生徒の保護者の皆さんに安心安全で快適で楽しく祭典が見学できるのではないかな。それから、選手たちの送迎バスの安全な乗降のための場所も不備なため、多目的に利用できる町営駐車場の整備を要望する。	
(町長) 現在、中央運動公園の駐車場につきましては、ご指摘のとおり多数の来場が必要な大会等の際、駐車場不足が生じていることは認識している。ご意見のありました運動公園北側の土地については、今後、調査検討していければと考えている。	
1 0 遺構・遺跡について	(生涯学習課)
遺構・遺跡の継承について。大沢地区の天稻荷神社、茶臼岳山頂近くに放置され転がる石柱の管理はどうなっているか。	
(町長) 「大沢の天稻荷神社」は、昭和 36 年 10 月、町の有形文化財に指定しており、町としても重要なものと認識している。これら文化財については、所有者自身が適切な維持管理を行うものであり、町としては、文化財の保存修理費用に対する助成制度により支援している。「茶臼岳山頂近くに放置され転がる石柱について」は、現地が那須山頂付近であることから管理所管の環境省へ伝えさせていただく。	
1 1 観光業促進について	(観光商工課)
① 観光地域づくり促進とは具体的にどのようなものか。 ② 選ばれる観光地を目指して施設の魅力向上とは具体的にどのような施策を考えているのか。	
(町長) ①DMO を設立させ、地域の観光事業者が「自分ゴト」化して那須町の観光経営を考え、多様な関係者を巻き込みつつ、科学的なアプローチを取り入れた効果的で効率的な集客方法を行っていく。 ②観光施設等のバリアフリー化を進めるとともに、老若男女、障がい者、外国人等に対する受入態勢を充実させ、ユニバーサルデザインによる「人にやさしい観光地」の実現を目指すしていく。	
1 2 灌木の伐採について	(観光商工課)
奥那須の県道脇の石垣に生えている灌木がとても気になる。このままだと根が張って石垣が崩壊する。伐採できないか。登山口駐車場の北側斜面の木も同様。キャンプ場で死亡事故があった。もし倒れて事故になったら心配。	
(町長) 当該県道については、大田原土木事務所の管轄になりまして、毎週道路パトロールを行い、危険箇所等の早期発見・早期対応を実施していると聞いている。また、奥那須地区には国、県、町のそれぞれが管轄する施設があり、枯れ木・支障木等は連絡を密にして早期対応を心掛けている。	
1 3 観光行政について	(観光商工課)
湯本地区の景観や美観に関する観光行政についてどう考えているか。	
(町長) 湯本地区は、雄大な自然景観が豊富にある。町としてもこの貴重な観光資源の保全を国・県などと共に努めていく。	

那須高原展望台は恋人の聖地になっているが、今、地元の人は全然注目していない。覗き窓があり、ピエロが見えるはずが、木が生えて全然見えない。木を切るよう環境省に言ったが、切られていない。ぜひ交渉していただきたい。	
(町長) 木を根本から切ることは、環境省から一切許可取れない。明日、全国恋人の聖地観光協会市町村長会地方創生推進事業本部会が、那須のホテルで行われる。栃木県で恋人の聖地に手を上げているのが、那須町と野木町。盛り上げていく意味でも全国に発信していく。見えないことを恋人の聖地協会からも言っていたらいいように、私も頑張る。恋人の聖地は、町としてもPRにつながっていくので、アイデアあれば皆さんからいただければと思う。	
湯本地区奥那須方面の公共施設のトイレ、駐車場が汚い。今はどこでもトイレの綺麗さに力を入れている。ところが、奥那須観光地については、峠の茶屋は新しくなったが、それ以外は汚い。落書きもある。トイレの周りの雑草もひどい。大丸のトイレは屋根に苔が生えている。手入れがされていない。また、一軒茶屋交差点付近にウエルカムの看板がある。樹木の整備をしておらず、見えない。どこが管理かわからない。令和5年度の町の予算で入湯税が1億6千5万円ほどあるが、観光施設の管理事業は1千5百万ほど。10%も湯本に戻していない。もう少し、清掃と草刈りに予算を回していただきたい。	
(町長) トイレ周辺の草、施設の汚れについては現地を確認する。一軒茶屋の看板については、管理がどこか、早急に調べる。見ていただくのにインパクトがある場所ですので、対処方法、管理者について調査する。入湯税について、観光に関する予算として使っている。町内各地から入湯税として上げていただいている。特に湯本地区にとは言えないが、精査しながら、観光に特化した使い道、湯本地区だけでなく、全ての観光に持っていければと考えている。地区別再生計画で全部がひとつになって、那須の観光から農業、林業、全てにつながっていく。	
トイレ周辺の草刈りについて。刈った草は片付けてほしい。また、登山道入口も草が茂って危ないので見てほしい。	
(町長) 対応する。	
1 4 危険物撤去について (観光商工課)	
登山道付近の危険物撤去に関して。ゴミ放置や施設建設工事の廃材が残され、危険。	
(町長) 町内の登山道については、国、県、町がそれぞれ管轄しており、定期的に巡視・ゴミ拾いを行い、落石・危険物等は都度対応している。また、自然公園美化活動として、那須山岳会及び一般ボランティアの協力を得て、山岳地帯の清掃活動を年2回実施している。	
1 5 意見 (回答を求めるものではなく、以前から思っていることを記載した。)	
10 年前に別荘を建て 3 年前に神奈川県鎌倉市から完全移住した。那須が大好きで愛犬と余生を過ごしたいと思ったから。那須町全体がもっと活性化し潤うためにどうしたらよいのか以前からおもっていることがありメモした。順不同。	
① 税収を増やすために＝転入者・観光客を増やす	

- ② 転入者&転出者にアンケートをとる⇒那須町の強み弱みを知る⇒強み(大切にすべきもの)=売り=強化する(弱みは改善点なので改善を)
- ③ 移住者が魅せられている那須高原=森林・環境の保護
- ④ 『日本一ドッグフレンドリーなリゾート』でもっと売るには
- ⑤ 他観光地との差別化をもっと促進⇒ワンコにやさしいをもっと⇒ワンコ関係で企業とタイアップ、
- ⑥ 湯本地区の美化・活性化 ⑦ 旧那須小学校の活用
- ⑧ 移住者、地域おこし協力隊の方、nasumo.jp さん nasumowanko さん、那須大好きさんなど積極的&好意的に情報発信している SNS 代表者とチームをつくり何をすべきか協力してもらう=那須が好きな人達、多方面から多角的に意見を収集

那須に移住してきた。那須が美しく発展してほしい。那須にどんな魅力を感じて、皆さんが移住してきているか、那須の何がだめで出て行っているのかを把握するのがいいのではと思い意見として出させていただいた。また、移住定住促進について、若い人が増えないと発展はない。子育て世代が安心して子どもを育てられる地区にしなければいけない。子育て世代は、子どもの教育を一番に考えて住む場所を選ぶ。那須町の方が中学、高校を選ぶ時、町内の中学高校を選んでいるのか。ここで子どもを育てたいと思えるような、子どもがまた戻ってくるような町づくりがあるといいと思う。また、那須小体育館は素晴らしい木材使っている。ワークベース那須の動画を見て、場所が黒田原では遠いのではと思った。例えば那須小学校を旅行者が使えるという工夫があってもいいのでは。また、旅行は温泉目的が多い。温泉街の廃屋が多く美観が損なわれている。湯本全体を町が仕切ってどう整備していったらいいのか。観光客を増やすのであれば、温泉地区もきれいにすべき。また、那須街道沿いの1万歩の森も最近は草が茂っている。隅々まできれいにすることが必要。町だけでは大変とあれば、ボランティアをつのるとかやり方は色々ある。全体の整備を考えてほしい。

(町長) 賛同させていただける部分も多くある。那須街道は土地の問題がある。公団困難地域の問題が解決しないと廃屋もなくなる。また、歴史ある温泉は売りになる。インバウンド、高付加価値な町づくりを進めたい。また、那須街道の赤松林にもう一度赤松を増やそうと計画している。また、子育てに関して、那須町は、他所より早い物をやっている。オムツ券の配布、不妊治療など子供の環境、教育には他から引けを取らない。子育てに関してはよそから来ていただいて、育てやすい環境づくりをやっていこうと思う。

7月11日（火）那須町文化センター

1 カーボンニュートラルの実現について	(環境課)
2030年までにカーボンニュートラルを実現するために具体的にどんな施策をとるのか。町民にはどんな協力を要請するのか聞きたい。	
(町長) 2050年までのカーボンニュートラル実現に向けて、木質バイオマス発電などの再生可能エネルギーの導入促進や廃棄物の減量化など、本町の地域特性を生かした施策を展開していく。町民の皆さんには、電気等のエネルギー節約、家庭ごみの減量や公共交通機関の利用などに取り組んでいただきたい。	
木質バイオマス発電は町として取り組むのか。	
(町長) 事業者から実証事業として提案いただいているもの。	
具体的な事業者が決まっているのか。那須町は火山を抱えていて、地熱発電もある。再生可能エネルギーの可能性がたくさんある町。具体的に町が進めていかなければならないのではと考える。	
(町長) 町でも各地に視察に行っている。担当課で意見交換しながら、町民の皆さんにプラスになるようなものを考えながら進めている。	
2 永続的クリーンアップ活動を！	(環境課)
東北道を始め、今どこの市町の道路周辺もゴミのポイ捨てが目立つ。ひどいのは尿入りペットボトル、袋ごと捨てられている。昨年の国体開催で3度程クリーンアップ活動に参加したが1カ月も過ぎないうちに元の木阿弥。ゴミのポイ捨てが“0”になれば理想だが、なぜ捨てるのか。全町民対象にアンケートを実施。ゴミ捨てゼロへの意識向上を図る。次に、各路線、地域ごとに担当エリアを決め、1. 5. 8月の年3回、回収活動。ゴミが捨てられやすい民家のない箇所「ゴミポイ捨て禁止」「ゴミは持ち帰りましょう！」etcの看板設置。ひどい箇所には防犯カメラの設置(含表示)。各販売店、自販機メーカーへの看板設置要請。さらに町の「ゴミポイ捨て禁止条例」の制定等“徹底”を提案したい。	
(町長) 平成9年4月に「那須町空き缶等のポイ捨て及び散乱防止に関する条例」を制定し、ゴミの不法投棄の削減に努めている。現在、集中的にゴミが捨てられる箇所には監視カメラの設置やごみ捨て禁止看板を設置するなどの対応をしていますが、ポイ捨てをする方はなかなか減らないのが現状。町としては、ゴミ問題の意識付けには幼少期からの介入が重要であると考え、地元の小学生を対象にゴミ問題に関する環境学習を開催している。また、今回いただいたご提案や他の自治体の成功事例を取り入れる等、当町に合った対応について調査・研究をしていきたい。	
ゴミの減量化も長いこと掲げてきたが、なかなか進んでいない。東京都国立市のような具体的な施策をしないとなかなか進まないのでは。	
(町長) ゴミに関しては、しっかりと分別をしていただくなど、減量化をお願いしている。	

先日、全地区でゴミ拾いをした。地域で啓発活動をしなくても効果がない。ポイ捨てを無くすなら、地域ごとに見守ってきれいにする動きを起こしてはどうか。捨てるのは行きずりの人なので、防ぐことができない。大きなゴミは町に連絡すれば片付けてくれる。地域ごとに、自分たちでどうしたらいいかを心掛けて、地域をきれいにするということをぜひ考えていただきたい。	
(町長) きれいになっているところにゴミは捨てない。皆さんの思いが繋がって、動きになっていくのが理想。行政としても皆さんから連絡を受けた時は、パトロールをしたり、ゴミが落ちている時は拾うようにする。協力を呼び掛けていきたい。	
3 県道 2 1 1 号線高久駅周辺の整備改善について	(建設課)
何とかしたい、しなければと町当局、町議なども行動しているようだが一向に進展していないと判断。気のきいた農道でもセンターラインがある昨今、コロナ禍前の懇談会でも質問したが、その時は柏台団地手前の架橋近くの東北線を横切り、新幹線手前から左折、高久駅前方向に南下し、ゴルフ場入口近くの 211 号線に合流する計画で現在地主と交渉中につき“乞うご期待”の説明だったがなりゆきは。あれから 4~5 年経つが、それらしき情報や説明はない。新たな路線がダメなら、駅前商店や住宅も減少しているので、JR ガードの拡張をベースに土地買収の可能性が大きくなっているのではないかと。道幅が広くなり、センターラインが入る状態になれば、事故防止と利便性が数倍アップするし、町民としても自信を持って道案内もできる。	
(町長) 当該路線につきましては、令和 4 年 2 月に道路詳細設計に係る地元説明会を開催し、計画案について概ね了承が得られたと聞いている。栃木県大田原土木事務所に確認したところでは、現在、この計画内容に沿って、道路用地取得について事業を進めているところで、JR との協議や用地調査等を進めていくと聞いている。町としましても、早期の整備完了に向けて、引き続き要望や事業への協力に努めていく。	
4 排水溝の修繕について	(建設課)
大雨時、排水溝に雨水がのみ込まれずに道路にあふれて通行の妨げになっている。コンクリートのふたの隙間が狭すぎる。	
(町長) 現地を確認したところ、側溝ふたの上に土や砂利、雑草などが堆積し、排水能力が十分に発揮できていない箇所があった。まずは清掃などにより機能の回復を図りたいと考えている。なお、沿道や側溝の清掃については、町の対応だけでは行き届かないため、今後も道路愛護作業など、引き続き地域の皆さんの協力もお願いしたい。	
5 景観について	(建設課)
町内の景観が悪い。	
(町長) 町では、景観法に基づく景観計画区域を那須町全域に指定し、豊かな自然と調和した良好な景観形成の促進に努めている。那須町景観条例の規定に基づき、町内の景観保全に努めていく。また、屋外広告物についても、良好な景観の形成、風致の維持、公衆に対する危害の防止を図るために屋外広告物法に基づいて、那須町屋外広告物条例を制定し、必要な規制を行っている。今後も、屋外広告物の表示や設置における指導やパトロールを	

行い、良好な景観の形成の保全に努める。	
那須街道の伐採が進んでいる。町が許可を出していると聞いている。樹木の伐採がかなり進んできているので、今の仕組みだと、これが防止できない。伐採を抑制する施策がとれないか。	
(農林振興課長) 伐採は計画的に行われるもの。面積要件に応じて許可や届出を出して行われる。那須街道は国立公園法などあり、各種手続きを経ないと伐採が行われない場所。具体的に場所を教えていただければ、手続きを経て伐採したところかどうかを確認できる。	
町が許可をだしているので、基準は満たしていると思う。今の仕組みのままだと伐採が進んでしまうので、それを改善する方法はないのか。	
(農林振興課長) 制度にのっとって整備されているものについては、現時点では食い止めることはできない。県とも相談しながら検討したい。	
6 定住について	(ふるさと定住課・生涯学習課)
若い人たちが生まれて育った所を大切にし、出て行かないような案はあるか。各会社企業などの団体が結婚を勧められるような、カップルができたら感謝状とか、御礼とかを出すなどの対策ができないか。	
(町長) 那須町の年代別社会動態を見ると、大学進学年代で大きく転出超過となっており、卒業後にある程度の戻りはあるものの、戻り切っていないことが分かる。定住促進のための住宅取得補助金や、賃貸住宅の建設・促進に加え、就職先やインターンシップの紹介など、企業との連携も進めていく。	
那須町では独身の方が多くいると思う。下野新聞で企業間婚活推進世話係の記事があった。企業間で情報交換をして、昔の仲人的な方がいると子孫繁栄に貢献できるのではと思い、この辺りのことを考えていただければと思う。	
(町長) 定住につながることを考える。婚活についてあの手この手で進めている。西郷村とも打ち合わせしている。人口を増やすこと、定住につながることを進めていきたい。	
7 消火栓の身の振りについて	(総務課)
水道普及に合わせ、消火栓も各地域要所に設置され、便利と安心が同時に満たされ、他市町と遜色のない状態になった。しかし、十数年経った現在、ホースやボックスも老化し、撤去されている箇所あり、さらには、いざという時に役に立つのか使用基準すらわからない状態。数年前にも質問したが、消防署は使用可だが、住民は不可。さらに維持管理は町内会・・・との回答だったと記憶する。改めて使用基準、維持管理担当、町内会の役割等、今後の方向等ルールを広報等で説明、教宣し、不安(不満も)を解消してほしい。	
(町長) 消火栓の操作は、危険を伴う場合があることから基本的に訓練を受けた消防署員や消防団員が行う事を前提としている。消防は、かつてそれぞれの自治会によって自治防災として運営されていた側面がある。そのような時期に町内各所に設置された消火栓の隣に消火栓 BOX が設置され、地域に必ずいたであろう地元消防団員が初期消火にあたってきたものと認識している。しかしながら現在は、消防団員の減少や設備の老朽化により消火	

栓 BOX の役割も減ってきている。そのような中、町では、老朽化により使用不能となった消火栓 BOX は撤去している。ただし、自治会によっては、現在も維持管理を行い地元消防団によって活用されている状態のものもあることから、町としては、統一的なルールではなく柔軟に対応している。
消火栓について数回質問している。地区によって使い方が異なってもいい。管理方法が別々になってもいいということで、説明があった。住民は、自分が住んでいるところの消火栓はどうか分からない。町内会会長も数年で交代する。町としてどう引き継ぎ指導をしているのか。それも分からない。消火栓、消火栓ボックスがある、ない。ホースがある、ない。自分のところの消火栓がどういう状態になっているか認知してほしい。数年に一度わかりやすく、町民に教育宣伝してもらいたい。
(町長) 消防署員、消防団の方は、わかっているかと思うが、現実には自治会長、班長に伝わっていないことがわかった。これからは、しっかりとお知らせしなければならないと考える。
(総務課長) 各地区に消火栓や消火栓ボックスは、基本的には消防署員や消防団員が使用する。古くなったものは、町の費用で、町が撤去する。これは、今後も継続していくが、自治会長の引継ぎされていないこともあるかと思う。町でも全体に伝わるよう伝えていきたい。
火災発生して、すぐそばに消火栓があるのに、使えない。何とも心苦しいので、使えないものは早く、地区の意見を聞いて、撤去することを促進してもらいたい。
(町長) 指導していく。
8 部下とのコミュニケーションについて (総務課)
① 部下とのコミュニケーションにおいて、町長が最も重視していることは何か。また、町長が特に注意していることや工夫していることは何か。 ② 町の目的や目標を部下と共有するためにどのような取り組みをしているか。 ③ 部下とのコミュニケーションにおいて重要なのは意見交換や共有だが、その為の環境整備など（コミュニティーサイト）を設けているか。 ④ 最後に、部下に対する感性を磨く（感受性を高める）ことも町長の役割と考えるがどの様にとらえているか。
(町長) ①職員の笑顔は、行政の宝。職場で「目配り・気配り・心配り・時間配り」の4つの配りを意識すること、部下からの「ハウ・レン・ソウ（報告・連絡・相談）」と上司への「カク・レン・ボウ（確認・連絡・報告）」がコミュニケーションにおいて大切なことだと考えている。町民の皆さんから信頼される町政、町民の皆様のための町政を全職員で進めていく上でも、職員には、これらのことを常に意識するよう話をしている。 ②毎月、三役・総務課長・企画政策課長・財政課長との打合せや三役・全課長との会議を実施し、情報共有・伝達を行っている。さらに、その内容を各課長から全職員に伝達する体制をとっている。また、毎朝、各課で朝礼を実施している。町政運営における基本指針（「わ

かりやすい行政」「スリムな行政」「やさしさある行政」を熱意と行動力で取り組みます）の唱和により職員の意識を高めるとともに、風通しの良い、明るく和やかな雰囲気職場づくりを目指している。

③グループウェアを導入しており、在庁時は利用が可能。しかしながら、グループウェアでは、意見交換等の際に細かなニュアンスが伝わりにくい部分が多々あるため、認識の齟齬防止のため直接対話を重視している。

④私がまちづくりを行っていくうえで、これまでも申し上げた通り、共に取り組んでいく職員とのコミュニケーションはとても重要であると考えている。町民の皆さんが安心して暮らせる、住み続けたいと思うより良いまちづくりを目指すため、私が町政に真摯に向き合う姿勢が共に取り組む職員との信頼関係と業務を行う上での意識の高さにつながっていくものと考えている。

9 矢の目ダムの有効活用について

(企画政策課)

SUP だけではもったいないのでは。

(町長) 矢の目ダムは、広大な自然環境を生かした多目的空間として利活用を検討しているところ。しかしながら、周辺道路の整備状況から大規模な開発行為を行うことが難しく、矢の目ダムの魅力を十分に発揮できる利活用方法が見つかっていない現状。有効活用が図られるよう、引き続き検討していく。また、皆さんからの提案もお待ちしています。

10 生成AIの庁内業務利用について

(企画政策課)

対話型人工知能(AI)「チャットGPT」に代表される生成AIは、利用者の質問や指示に従って、ウェブ上の大量のデータで学習した内容を踏まえ、文章や画像、音声などの回答を導き出すサービス。横須賀市や笠間市等では、既に業務利用の試行が始まっている。また、鹿沼市や栃木県では導入を検討中。当町も行政ニーズが多様化する中、生成AIは業務の効率化、町民サービス向上、行政の質の向上等に非常に有効なツールなので、業務利用を視野に検討する必要がある。次のような方策により導入してはどうか。

- ① 生成AIのリスクも含め理解を深めるため、職員を対象に庁内に体験用の専用端末を設置し、使い勝手等の意見アンケートを収集。
- ② 生成AI活用の基礎を学ぶ研修会を実施。
- ③ 利用範囲を限定せず、政策立案、議会答弁、行政サービスの案内補助等全業務で使い、有効活用できる分野を抽出し、課題を洗い出す。
- ④ 個人情報等のデータ流失、著作権侵害、偽情報拡散等への対策。
- ⑤ 使用者が真偽を判断できる素養向上を図り、補助ツールとして位置付ける。
- ⑥ 国等の生成AIのルール化を注視しながらも、業務利用について検討を開始。
- ⑦ 上記のことを踏まえ、生成AIを安全に利用できる環境を整備し導入の是非を判断。

(町長) チャットGPT等生成AIの行政分野での利活用については、機密情報の取り扱い、個人情報や著作権の保護、情報の正確性といった課題が指摘されている。しかしながら、町でも業務の効率化、業務の質の向上には有効なツールであると認識しており、既に一定の条件を設け業務用パソコンやタブレットからのアクセスを許可している。いただいたご

意見を踏まえ、国や県の動向を注視し、ガイドラインや規則等を遵守しながら、町に設置した DX 推進本部内のワーキンググループ等で、本格導入に向けた検討を進めていく。	
1 1	那須町のアピールについて (企画政策課)
那須町はすばらしい町。自然と豊かな国土が人間をすばらしくしていると思う。また、川が非常にきれいなので、このすばらしいことをもっとアピールすると思う。また、地域の名所を発見、発掘して町のすばらしさをアピールすることもいいと思う。	
(町長) 本町は、那須高原の雄大な自然景観や芦野・伊王野地域の里山の風景など自然資源に恵まれている。また、殺生石や堂の下の岩観音、遊行柳などの歴史・文化資源も多くある町。去年は電子雑誌の町特集版を制作したり、FM 大阪の番組で関西圏のリスナーに那須ならではの情報を発信した。今後も、引き続き那須の魅力のアピールに努める。	
1 2	那須温泉の有効活用について (観光商工課)
鹿の湯の温泉は、全国でも第 1 位、2 位という事。もっと PR してはどうか。	
(町長) 栃木県最古の歴史ある温泉として PR していく。	
1 3	観光業の活性化について (観光商工課)
観光業の活性化について、具体的対策を聞きたい。	
(町長) DMO を設立に向け、継続的なデータ収集行い、データに基づいた戦略を確立し、効果的で効率的な集客を図り、「稼げる」観光地域づくりを推進する。具体的には、各施設の決済機能のキャッシュレス化を促進し、事業者の負担軽減を図ることで顧客単価を上げ、さらにキャッシュレス化によるデータ統計情報を共有し、地域としての戦略策定に役立てていくというサイクルを巡回していく。(PDCA)	
1 4	単身高齢者の福祉について (保健福祉課)
我が家の向かいに住む単身高齢者は、10 年以上前から幻覚を伴う病気をわずらっており、我が家が攻撃対象になっている。町の福祉の方に連絡したが、その後も怒鳴り散らす症状は改善しない。福祉課や地域包括センターの方とメールや対面で何度も話をしたが、夜間であることを理由に、怒鳴り散らす現場への訪問はしないという事。我が家にもメンタルヘルスに問題を抱えた家族がおり、この一年のあいだ家庭内はめちゃくちゃになった。その事も福祉の方には伝えが、対応はできないとの返答。高齢者福祉において、日中の訪問だけではなく夜間の訪問もできる仕組み作りと、病気や認知症で社会生活が難しい場合でも地域から孤立しないように周囲との潤滑剤となる役割を福祉に求めたい。	
(町長) 町では、町民の皆さんが住み慣れたまちで自分らしい暮らしを（人生の最後まで）続けることができるよう、医療・介護・住まい・生活支援等が包括的に確保される体制（地域包括ケアシステム）の構築を進めている。夜間の訪問は、地域包括支援センターについては、限られた資源のなかで円滑に業務を遂行するため基本的に日中のみの対応としており、緊急時等は消防・警察に協力を頂いている。また、地域での潤滑剤となる役割についても、個々の事情及び地域特性に応じて、住民の皆様に最大限寄り添えるよう引き続き対応していく。個別の事情に係るご相談についてこの場での回答は差し控えさせていただきます	

ますが、状況の変化を注視しつつ、引き続き町・地域包括支援センター・ケアマネジャーが主治医と連携し対応を行ってまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

1 5 町中央の道標の身の振りについて

(生涯学習課)

その町や地区の中央基準となる場所に設置され、当時運賃や諸料金設定の基準として使われたと記憶。伊王野も芦野も交差点近くにキッチリ残っているが、黒田原は民家と歩道間にあり建物の一部が倒れかかり半分うずもれた状態。1~2 m²くらい土地を確保し、枠を作り、簡単な説明表示板を出すなど何とかできないものか。(歴史的にも価値があると認識している)土地の確保が困難なら、役場前道路脇付近に移動しても現在は問題ないと判断。(元は小島にあった支所付近に設置されていた物)

(町長) 令和2年度のまちづくり懇談会から意見をいただいております、回答が遅れてしてしまい大変申し訳ございません。ご質問の道標について調べたところ、設置されている場所は、個人所有の民有地であった。これらの情報を基に、土地所有者へ話を伺ったところ「代々受け継いでいるものであり、今の場所から動かす考えはありません。」との回答でした。町としても、どのような経緯で今の場所に設置されたのかは不明であり、所有者の同意無くしては、移設等を進めることは困難であると考えている。

大正8年に小島、芦野、伊王野の3箇所に設置されたという記録がある。小島は昭和29年に那須町が誕生したことに伴い、小島から現在の場所に移設したということ。個人の土地に町のものがあるということでもいいか。もし、個人のものというなら、買い取って町のものとするべき。ぜひ、移設していただきたい。

(町長) 動かしてもいいものかを含め、経緯等も洗い直す。前向きに調べていきたい。

1 6 図書館の設備について

(生涯学習課)

小学校で読み聞かせボランティアをしています。図書館を度々利用してる。思うところが多々あり。

- ① 新しくしてほしい。他市の図書館も利用している。那須町もこうだったらいいのと思う。
- ② 新築が難しいのであれば、児童書コーナーだけでも広くしてほしい。職員が工夫して展示しているが、今の場所では工夫だけでは限界がある。
- ③ エレベーターを設置してほしい。図書館は高齢者や車いすの方も利用する。自分の希望の本を職員に頼んで選んでもらうこともあり、不便。

(町長) 那須町立図書館は、1978年の開館以来町民の多様な自主的学習、研究並びに調査の利用に供し、教養を深める親しみやすい図書館を目指して開館してきた。町では、年数が経過した長寿命化となった施設として、図書館を今後どのような体制で残すのかを検討しており、ご意見をいただいた児童書のコーナーの拡大、エレベーターの設置も現在の施設で可能なのかも含めて更に検討していく。

1 7 那須シニアカレッジの活動について

(生涯学習課)

「那須シニアカレッジ」の代表をしている。シニア(老人)と子どもが健康(元気)で楽しむ町が理想の町だと思っている。私は、80歳を超えているが、ここに至るまで経

験したことから、60歳頃からの生活のあり方が重要だと思う。那須シニアカレッジの活動と目標を紹介し、皆さんの感想、意見をお聞きたい。(経験豊かな人たちが所属しているので、町や地域に何か貢献できないか。自分たちからできることをしていこうという提案をしたい)

(町長) 那須シニアカレッジの活動などは「那須町の生涯学習団体・サークル紹介」の冊子で紹介することが可能。また、経験豊かな那須シニアカレッジの皆さんが地域に貢献されたいということだが、ケースによっては、経験豊富な皆さんの力を借りて生涯学習につなげていくことも可能かと思う。生涯学習課では、子どもを地域で育てるというコミュニティ・スクールの活動もしているので、賛同していただける場合は、ぜひご協力いただきたい。

那須シニアカレッジは17年前に立ち上がったが認知度が低い。静岡県清水区にある清見潟大学塾や茨城県のかしま灘楽習塾をモデルにした。究極の生涯学習の機関だと自負している。ボランティアでやっている。ヨーガ、太極拳、英会話など自由に立ち上げることができる。シニアカレッジと言っている。活動をもっと拡大したい。また、活動の意味がわかっていただけていないと感じる。清見潟大学塾は1,600名、113講座あり、平成2年度に、ふるさとづくり内閣大臣賞を受賞している。完全に、市民が立ち上げて、町の介助を受けていない、全くボランティアで運営している。こういうものが、これからの高齢化社会にぜひ必要だと考える。各地区、今まであった祭りや組内の行事が消滅している。リーダー、集団行動の学びなどの生涯学習の機能が失われている。自治会長など輪番制ではだめ。リーダーが育って、地域を育てないといけない。新町民が自治会に入っていない。二層化している。シニアカレッジは旧町民と新町民の両方が加入している。町のひとつの大きな特色となると思っている。こういう活動を皆さんに認識していただきたい。ハイレベルな内容もある。自由に展開でき、誰でも講師になれる。スキル、やる気があればいい。現在は31講座あり、今後、拡大したい。全国でも珍しい活動をしている。自主的な活動でないと長続きしない。いつまでも社会の一員でありたい、役に立ちたいと言う気持ちで活動をしている。本質をご理解いただいて、町の魅力のアピールになると思っている。

(町長) 何歳になっても自分のやりたいことをやる、人の役に立つ。社会の一員として、いろいろなところで貢献していただける方々。子供は町の宝、高齢者は財産と思っている。その財産を発揮していただきたい。生涯学習の場に出ていただき、我々もPRさせていただきたい。

旧町民の良さ、新町民の良さがある。力を合わせていけたらと思う。

18 危険な交差点について

(建設課)

(当日意見等) 地区内に危ない交差点ある。町に伝えて、看板は立ててもらったが、まだ不十分。先日、町に道路に凹凸を付ければ、車のスピードも落ちるのではと提案した。今後どうなるか。旧母子センター付近。

(町長) 検討して方向性を連絡する。	
警察署にも聞いたが、町道なので、管理者の町が整備してもらえないか。子育て世代に定住してもらいたいと言っているのに、危ない箇所を直してもらえないのでは話にならない。町として危険な場所を無くす気があるのか聞きたい。	
(町長) 努力します。建設課と相談しながら進めます。通学路にもなっている。何らかの方法を考えて、ご連絡させていただく。	
1 9	子育て世代の定住について (ふるさと定住課)
(当日意見等) 人がいないとよく聞く。特に子育て世代が少ない。那須町で子育てするメリットがあるのかという話が出るが、ないのではと感じる。学校、スーパーに行くにも遠い。車がなければ何もできない。例えば、子育て世代の方が那須町に家を建てたとき、固定資産税を10年間無料にすると、インパクトあるのでは。また、那須町は観光地なので観光施設は那須町に住んでいる子供だけ無料にすると、那須町はすごいということで集まって来るのではと思う。	
(町長) 町では3歳になるまでのお子さんへのオムツ券配布や不妊治療の助成など他ではやっていない取り組みをしている。観光施設に関しては、行政がお金を出してとはいかないが、企業でそれらができるか提案したい。また、プログラミング教育は先駆けた取り組みです。子どもを育てやすい環境づくり、子育てするために那須に来たいと思うほどのものがないとだめだと思う。そういう意見をいただきながら、取り組みたい。	
来る方に対する補助はもちろんだが、那須町で生まれ育った人が家を建て、住んでもメリットがない。町内の人にもメリットある施策をしていただきたい。	
(ふるさと定住課長) 新築住宅は45歳以下の方が建てていただければ補助金が出る。基本30万円で町内業者を使うとプラス20万円。合計50万円の補助。	